

中村栄孝 日本・朝鮮史学者。<敗戦>で人生が二分されるも、中近世の日朝関係史研究を開拓し、体系を確立した。

なかむらひでたか

教科書疑獄・1902 = 千葉県山武郡増穂村(大網白里町)北横川に生まれる。

日露戦争終・1905 = 3歳 :

大逆事件判決1911 = **9歳** :

明治天皇没・1912 = 10歳 :

東京府立第一中学校 ,

大暴落・・・1920 = **18歳** :

原敬首相暗殺1921 = 19歳 :

第一高等学校を経て、
関東大震災・1923 = 21歳 : 東京帝国大学文学部国史学科入学。

黒板勝美の指導を受け、

円本時代始・1926 = 24歳 : 中世の日朝関係を卒業論文に卒業。朝鮮総督府朝鮮史編修会嘱託となり、京城(ソウル)に赴任。対馬に出張して、宗家から朝鮮総督府に譲渡した史料を受領。

金融恐慌・・・1927 = 25歳 : 「朝鮮史」第4編部(李氏朝鮮太祖より宣祖)主任となり、図書部・整備部主任を兼任。朝鮮総督府修史官。

世界恐慌・1929 = **27歳** :

満州事変・・・1931 = 29歳 :

この間、青丘学会を創立して機関誌{青丘学叢}を刊行、

日中戦争始・1937 = 35歳 : 同編修官。

健保+総動員 1938 = **36歳** :

日米開戦・・・1941 = 39歳 :

敗戦・・・1945 = 43歳 : 同教学官兼編修官・朝鮮史編修会幹事となったが、敗戦により帰国し、

新憲法公布・1946 = 44歳 : 朝鮮総督府廃庁により退官。

新憲法施行・1947 = **45歳** :

極東裁判決・1948 = 46歳 : 名古屋大学文学部創設により教授に就任し、国史学担当。

独立回復・・・1951 = 49歳 :

国連加盟・・・1956 = **54歳** :

安保闘争・・・1960 = 58歳 :

大学評議員・文学部長・大学院文学研究科長を歴任する一方、朝鮮学会幹事・編集委員・副会長を務めるなど朝鮮学の振興に尽力、織豊政権・東海地域史の研究も行なった。

大学紛争始・1965 = **63歳** :

いざなぎ景気1966 = 64歳 : 停年退官し、名誉教授の称号を贈られた。天理大学文学部教授となり、

おやさと研究所第2部(中国・朝鮮)主任、ついで朝鮮学科主任を務めた。

大阪万博・・・1970 = 68歳 : 大著「日鮮関係史の研究」上・中・下の研究により日本学士院恩賜賞を受賞。

石油ショック1973 = 71歳 :

角栄金脈辞任1974 = **72歳** :

JALハイジャック・1977 = 75歳 : 同大学を辞職して、郷里北横川に帰り、

中曽根内閣・1982 = 80歳 :

ディズニーランド 1983 = **81歳** :

・・・・・・1984 = 82歳 : 没した。